

熱い！パリオリンピックから記事より

8月19日（月）

夏休みもあと2週間（14日）となりました。今年度から以前の夏休みに戻りましたが有意義に過ごせているでしょうか。3年生にとっては進路決定の大切な時期です。家庭学習が益々重要となるのがこれからの時期です。すぐに「勉強しなさい！」と大人が手と口を出すから「考える力」と「自己肯定感」は奪われます。まず、「自分は どうしたい？」ということがこれからのキーポイントになります。自分で計画を立て、自発的に家庭学習をしてください。『自分は将来どうしたい？』といつも自問自答してください。『友達が〇〇するから、私も●●したほうがいいかな？』逆に、『自分は どうしたい？』と、自分で考え、自分で決めて、行動してきた人は、気持ちよいほど、前向きです。自ら学び、自ら考え、自ら鍛える体験を積み重ねていくことで、何か困難なことに出会っても、「自分ならなんとか乗り越えられる」と思います。

先週まで行われていた 熱い！パリオリンピックの記事を見つけたので紹介します。

～ここから～ パリオリンピック陸上競技日本代表男子110メートルハードル5位入賞の村竹ラシッド選手に陸上競技の基礎を教えたのが、ある中学校の陸上競技部の先生です。世界最高峰シリーズのダイヤモンドリーグなど世界を股にかける村竹選手に、陸上競技の楽しさや厳しさを教えた先生が、当時の熱い練習やチームでの村竹選手の存在感を語った。村竹選手の基礎は、中学時代の熱い練習から作り出されている。先生は「いつもびよんびよん跳ねている少年」と村竹選手の印象を振り返る。足首の強さと強いバネが武器で、入学当初は幅跳びや高跳びにも挑戦していた。「リズムを刻む感覚が楽しかったのと、走って勝てない相手にハードルがあったら勝てる喜びもあったと思います」と110メートルハードルにドはまりするとメキメキと力をつけた。中学2年生の県大会では優勝して見せた。村竹選手も「きつかった」と話すほど、当時の練習は厳しかった。先生の指導は熱い言葉と工夫した練習で生徒らを鼓舞するスタイル。冬季練習は代わり映えしないため、月に1回は近くの砂浜へ。海岸をとにかく走った。「ゴールは自分で決めなさい！」と限界まで走り、「辛いときは声を出せ！」と富士山に向かってみんなで目標を叫んだ。その後は水遊びで息抜き。緩急ある練習は、村竹選手の基盤を強くした。部内での愛称は「ラシ」。「とにかく優しい」と誰もが認める性格で、「チームに自分を表現することが苦手な子も、巻き込める。みんなをつなげるような子でした」。とにかく先生の言うことには大きな声で「はい！」と返事をする生徒だった。指導方針は「みんなに愛される選手になろう。応援されるチームをつくろう」。先生の教えが根底にあるからこそ、村竹選手は多くの人に応援される選手なのだ。 ～報知新聞より抜粋～